



私たちは、信頼される・優しい・安全な医療を実践し、
地域と勤労者の皆様の健康を守ります。

「信頼・優しさ・安全」

副院長就任挨拶

副院長 柴田 俊輔



このたび、令和八年四月より副院長を
拝命いたしました。大変光栄に存じます
とともに、その責任の重さを改めて実感
しております。

私は、安全管理、感染対策、地域連携・広報、がん診療、
薬事・医療機器管理の各分野を担当させていただくことと
なりました。いずれも病院運営において重要な役割を担う
分野であり、私自身まだ学ぶべきことも多くありますが、
常に研鑽を重ね、関係部署や職員の皆様と協力しながら、
その責務を果たしてまいりたいと考えております。

また、これらの取り組みを通じて、職員一人ひとりがや
りがいを持って働ける病院づくりにも努力してまいります
とともに、病院の理念として掲げられている「信頼・優しさ・
安全」を念頭に、地域の患者さんやご家族に安心して医療
を受けていただける病院として発展していけるよう、微力
ながら全力で努める所存です。

今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、よろし
くお願い申し上げます。



地域の 安心を支える、 私たちの救急医療体制

各科の専門医が一丸となる、全科連携型のチーム救急医療



当院の救急外来は、鳥取県西部地区における年間約1万人以上の救急搬送のうち、3,000名以上の救急患者を受け入れる地域の中核的役割を担っています。

山陰地方は都市部と比べ医療資源が限られ、広い範囲に人口が分散しているという地域特性がありますが、当院はそのような環境の中で「断らない救急」を目指し、地域住民の安心を支える体制を整えています。

内科・外科・整形外科・脳神経外科など各診療科が緊密に連携し、脳卒中疾患・心臓血管疾患・消化器疾患・四肢脊椎疾患といった重篤な救急疾患にも迅速に対応できる体制を構築しています。

当院はこうした地域のニーズに応えるべく、労災病院としての外傷医療・労働災害対応の専門性も活かしながら、地域の医療機関・消防機関とも連携し、山陰西部の救急医療を支える重要な拠点として機能しています。

当院の救急診療「5つの強み」

- 1 脳卒中疾患** 脳神経内科と脳神経外科の密な協力体制。放射線技師との連携で緊急MRIやCT検査も速やかに行い迅速な対応が可能です。
- 2 心臓血管疾患** 血管疾患に対する救急対応が可能です。
- 3 消化器疾患** 吐血や下血などの消化管出血に対して、迅速に内視鏡検査・治療等を行います。
- 4 四肢・脊椎疾患** 骨折をはじめとする四肢や脊椎の外傷性疾患へ速やかに対応します。
- 5 手術・日中連携** 麻酔科と各科による手術患者への迅速対応。また、日中の診療所等（医療機関）からのご紹介にもスムーズに応じます。

熱中症 予防の ポイント

熱中症は、高温多湿の環境下で体温調整が上手く働かず、体内に熱がこもることによって起こります。予防を心がけて、暑い夏を安全に過ごしましょう。

- ①水分補給……喉が渴いていなくても、こまめに水分を摂るようにしましょう。
スポーツドリンクは、糖分が多く含まれているため飲みすぎには注意。⚠
普段の水分補給は水や麦茶がおすすめです。
- ②塩分補給……食事から塩分は十分摂れているため、普段の食事で塩味を増やす必要はありません。
多量に汗をかいたときは、水分と一緒に塩分も補給しましょう。
- ③暑さを避ける…室内でも暑さを避ける生活を意識しましょう。(エアコン、扇風機、すだれなど)
- ④服装の工夫…通気性のよい服や、吸湿・速乾性のある素材を選びましょう。

夏バテを防ぐ 食事のポイント

夏バテは、暑さによる自律神経の乱れや食欲の低下、栄養不足によって起こります。バランスよく栄養素を摂り、体の内側から元気になりましょう。

～積極的に摂りたい栄養素と働き～

たんぱく質

筋肉や内臓、免疫力の維持に必要。疲労回復にも役立ちます。

多く含む食品

肉・魚・卵・大豆製品・乳製品など



●鶏のささみは低カロリー・高たんぱくでおすすめです。

ビタミン B1

糖質をエネルギーに変え、疲労回復を助けます。

多く含む食品

豚肉（特にヒレやもも肉）・うなぎ・玄米・枝豆など



●にんにくや玉ねぎ・にちと一緒に食べると吸収率 UP

●お酒や甘いもの・糖質の摂取が多い方は不足しがちです。

ビタミン C

ストレスや暑さへの抵抗力を高め、免疫力をサポートします。

多く含む食品

パプリカ・ブロッコリー・じゃがいも・キウイ・いちご・レモンなど



●いも類のビタミンCは加熱に強いので料理にも◎

●喫煙はビタミンCを多く消費します。

ミネラル

体の調子を整え、水分バランスを保ちます。

多く含む食品

野菜・海藻・小魚など



●ミネラル（特にカリウム）と水分の補給に、夏野菜が役立ちます。

クエン酸

疲労感を軽減し、新陳代謝を活発にします。

多く含む食品

柑橘類・梅干し・酢など



●だるさ対策に◎

～バランスよい食事にするためには？～

暑い日はそうめんなど麺類だけになりがちです。肉・魚・卵・大豆製品などたんぱく質が多い食品と野菜をプラスしましょう！食欲がないときは、大葉やみょうがなどの香味野菜を取り入れると、さっぱりして食べやすくなります◎



夏野菜に期待できること

☆水分・ミネラル補給

☆紫外線によるダメージ対策

☆胃腸の調子を整える



例) トマト・きゅうり・なす・ピーマン・オクラ・モロヘイヤなど

1日3食しっかり食べて、熱中症と夏バテを防ぎましょう！

外来診療担当医師

令和8年7月1日現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	岡野徹 土海幸 村上大気 小野川周平		村上大気 大月健朗 大谷田敦宏 田中芳宏 小野川周平		岡野徹 田中芳宏 大月健朗 土海敏幸
脳神経外科		網崎秀史	大学医師	田邊路晴 (応援医師 第2・4週)	
脳神経内科	楠見公義 中下聡子	楠見公義 根鈴怜治	楠見公義 中下聡子	根鈴怜治 中下聡子	楠見公義 根鈴怜治
泌尿器科	門脇浩幸 前田大輝	田路澄代 門脇浩幸	門脇浩幸 田路澄代	休診	田路澄代 前田大輝
小児科	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
外科	柴田俊輔	三宅孝典 山田敬教	福田健治	柴田俊輔 高橋朋大 山根祥晃(乳 腺13時~) 三宅孝典(大腸肛門13時~)	柴田俊輔 山根祥晃
消化器内科	三浦将彦 藤井雄基 丸山浩二	向山智之 大学医師	三浦将彦 丸山浩二 大学医師	謝花典子 向山智之 加藤雅之	加藤雅之 藤井雄基
糖尿病・代謝内科	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
呼吸器・感染症内科	大賀俊典	石川総一郎	石川総一郎	山根康平	山根康平
腎臓内科	山本直		陰山佳奈	山本直	花田日向子
循環器内科	尾崎就一 利川太昌 ペースメーカー外来	水田栄之助	尾崎就一 友森匠也	後藤慶大(大学)	水田栄之助
心臓血管外科		森本啓介 樋口達也		森本啓介 樋口達也	
形成外科			大学医師		
心療科		梶谷直史(大学)	小松弘二(大学)		国分一男(大学)
皮膚科	三島エリカ	三島エリカ	三島エリカ	三島エリカ	三島エリカ
眼科		大学医師	大学医師	大学医師	
耳鼻咽喉科	森實理恵	森實理恵 江原浩明	森實理恵	森實理恵 江原浩明	森實理恵
歯科口腔外科	高橋啓介	高橋啓介	高橋啓介	高橋啓介	高橋啓介
放射線科	足立憲	足立憲	足立憲	足立憲	足立憲
産婦人科	坂本靖子 池淵愛	岩部富夫 池淵愛	岩部富夫 坂本靖子	岩部富夫 坂本靖子	岩部富夫 池淵愛

※外来診療受付時間：平日 8:15 ~ 11:00

令和8年4月新任医師紹介

木村 昂一郎	小児科副部長	藤井 雄基	消化器内科	大賀 俊典	呼吸器・感染症内科
陰山 佳奈	腎臓内科	根鈴 怜治	脳神経内科	高橋 朋大	外科
小野川 周平	整形外科	前田 大輝	泌尿器科	貝谷 光	耳鼻咽喉科
山内 一輝	臨床研修医	水本 篤志	臨床研修医	松下 隼人	臨床研修医
小椋 紀稀	臨床研修医	小谷 凜太郎	臨床研修医	内田 実良	臨床研修医

● 2026年7月発行

山陰労災病院

〒683-8605 鳥取県米子市皆生新田1丁目8番1号

TEL 0859-33-8181 FAX 0859-22-9651

ホームページ

さんいんろうさい

検索

